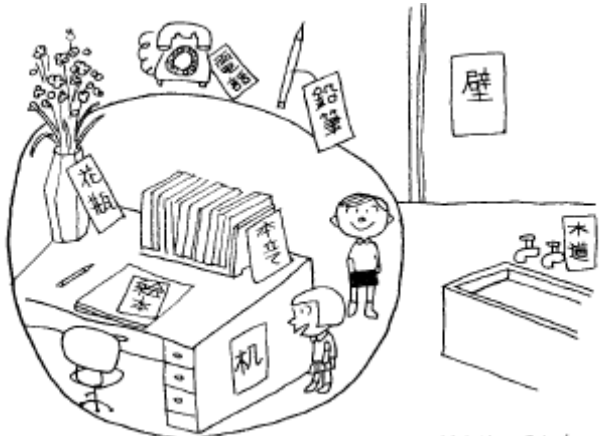
体験を通じて覚えさせるよう工夫する

牛乳瓶で「牛乳」を覚えさせるように、文字どおり、実体に即して漢字を教える方法があります、机に「机」、本立てに「本立て」、壁に「壁」、花瓶に「花瓶」というように、漢字を書いた紙きれを貼っておくのです。

こうして、「洗面所」「台所」「水道」「洗面器」「奢」「茶碗」「絵本」「鉛筆」「三輪車」「電話」「鏡」「鏡台」……など、漢字で書き表わせるものは、何でも利用することができます。

この応用で、「熱い」「冷たい」という漢字を教えることができます。二本の牛乳瓶に、一つは「熱い」他は「冷たい」という漢字を書いた紙を貼りつけ、それぞれに、熱湯と氷水を入れておくのです。

子供は、この二つの瓶に触れることにより、“熱い”ことの体験と、“冷たい”ことの体験をし、その体験を「熱い」「冷たい」という文字に結びつけさせるのです。



目につく物には何でも漢字で書き表わした紙をはっておく

こういう学習で、子供は、「熱い」という字を見れば、熱かった経験を思い浮かべ、その感触を思い起こし、「冷たい」という漢字を見れば、冷たかった経験を思い起こし、その感触をまざまざと思い浮かべるでしょう。

このように、漢字が読めるということは、「熱い」という漢字を「あつい」と発音できることではなくて、それ以上に、その体験、その感触を呼び起こすことでなければなりません。

「長い」「短い」「重い」「軽い」「大きい」「小さい」「太い」「細い」「広い」「狭い」……こういう漢字は、「熱い」「冷たい」と同じようにして教えることができます。

マッチ箱を二つ用意して、一つには鉛などの重い物を入れて、これに「重い」と書いておき、もう一つには綿でも入れて、これに「軽い」と書いておけばよろしい。

「長い」「短い」は、使い古しの二本の鉛筆でもよろしい。この場合は、カードに漢字を書いて、糸で鉛筆に結びつけておけばよろしい。

「丸い」「四角」「三角」「白」「黒」「赤」「青」など、こうして教えられるものはいろいろあります。皆さん、創意工夫されて良い方法を作り出してください。